

## ～E型肝炎患者の発生について～

- 12月4日、県内で、今年初めてのE型肝炎の患者が確認されました。（全国では今年、E型485件（11月26日現在）が報告されています。）  
これまでの県内の発生は平成18年からの累計で22件です。
- E型肝炎の感染経路は経口感染であり、主にウイルスに汚染された食物、水等の摂取により急性肝炎を引き起こします。治療方法は対症療法しかありません。
- 感染予防策としては手洗い、飲食物の加熱が重要です。E型肝炎の流行地域へ旅行する際は、飲料水、非加熱の貝類、非調理で皮付きの果物・野菜をとらないよう注意しましょう。
- また、E型肝炎は動物からヒトへの感染事例の報告もあることから、野生鳥獣の内臓を食べる際には、中心部まで火が通るよう十分に加熱してください。特に、妊婦や高齢者は、感染すると、劇症化し死亡するリスクが高まるので、野生鳥獣の肉等を生で食べないようにしましょう。

## &lt;患者の概要&gt;

## (1) 患者

男性（56歳）、上益城郡在住

## (2) 職業

自営業

## (3) 症状

黄疸、肝機能異常、肝腫大、全身倦怠感、食欲不振

## (4) 経過

9月22日：県外で肉料理を食べる。

11月8日：黄疸が出たため、御船保健所管内の医療機関を受診。

11月15日：黄疸悪化したため熊本市内の医療機関に入院。

11月22日：重症化のため熊本市内の別医療機関へ転院。

12月1日：血液の抗体検査により、E型肝炎であることを確認。

（お問い合わせ先）

健康危機管理課 感染症対策第二班 担当：大和、槐島  
電話：096-333-2240（直通）（内線 33154）

（裏面あり）

### ■ E型肝炎とは

- ・ 野生鳥獣の肉の加熱不足等のため、E型肝炎ウイルスに経口感染すると、2～9週間の潜伏期間を経て、全身倦怠感、食欲不振等を伴い、その後黄疸が現れます。妊婦で劇症肝炎の割合が高く、致死率が20%にも達することがあります。人獣共通感染症と認識されている唯一の肝炎です。治療は対症療法となります。

(予防)

- ・ 汚染された食物、水の摂取により感染することが多いので、予防には手洗い、飲食物の加熱が重要です。
- ・ E型肝炎流行地域へ旅行する際は、清潔の保証がない飲料水（氷入り清涼飲料を含む）、非加熱の貝類、非調理で皮付きの果物・野菜をとらないように注意する必要があります。
- ・ 動物の内臓、特に豚レバーを食べる際には、中心部まで火が通るよう十分に加熱することが重要です。食べる前の調理の段階でも、皮膚の傷からウイルスが体内へ入ることのないよう注意してください。
- ・ なお、ワクチンは開発段階です。

### ■ 熊本県でのE型肝炎の年間発生件数（今回の事例を含む） R5. 12. 5 現在

年	H18～H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
E型肝炎	13件 (0～2/年)	2件	1件	3件	1件	0件	1件	1件	22件

記録が残っている平成18年以降、県内での死亡事例はありません。

